朝来市水道事業審議会　第４回　会議録

○ 開催日時　令和８年 10 月 30 日（金）13 時 55 分から 15 時 20 分まで

○ 開催場所　朝来市役所本庁舎　３階　301・302 会議室

○ 出席者の氏名

	出　席　者	欠　席　者
委　　員	安　保　敏　之	阿　野　真由美
	奥　村　尚　志	衣　川　浩　二
	木　村　昭　興	椿　野　純　夫
	島　　裕　幸	
	中　西　光　彦	
	西　垣　　惠	
	松　原　朋　恵	
	宮　田　さと子	
事　務　局 (上下水道部上下水道課)	上下水道部長　　野　中　昭　義	な　し
	上下水道課長　　松　尾　孝　一	
	上下水道課副課長　　奥　　聡	
	上下水道課主任　　木　村　知　晶	

○ 傍聴者　　なし

○ 審議内容

１．開会

定刻より早いが委員が揃ったため、第４回朝来市水道事業審議会を開催。

本審議会定数 11 名のうち、開会時出席委員８名と過半数を超えており、水道事業審議会条例第６条第２項の開催要件を満たすため、会議の成立を報告。

前回に引き続き、水道事業ビジョンの策定業務を受託している株式会社相互設計事務所にも出席いただいている旨を紹介。

また、前回同様、会議録作成の為、録音することを報告。

２．挨拶（木村会長より）

みなさん、こんにちは。

本日は、朝来市水道事業ビジョンの更新のための、第４回目の審議会です。

審議会も大詰めを迎えまして、今回は「朝来市水道事業ビジョンの素案について」ということで、今までの審議会で審議していただいた内容をもとに素案が出来上がりまして、その素案について事務局から説明していただきます。今回、審議いただいた内容を反映したものが、素案の最終形態ですので皆さんの率直なご意見やご質問、活発な意見交換をお願いいたします。委員のみなさんには大変お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

３．議事

(1) 朝来市水道事業ビジョン素案について

(2) 施策方策「ＡＳＡＧＯ」の実現方策について

(3) ロードマップ（事業スケジュール等）について

事 務 局：資料により議事を一括説明

松原委員：水質について、今年の４月から国の基準が示されたが基準値が高すぎると考えている。

事 務 局：PFAS の基準値について、PFAS が検出されたところでは、国の基準よりも低い数値を基準としているところもあるが、国が定めた基準であるこの数値を用いたい。

事 務 局：基準である 50ng という量がどれくらいなのか想像がつかないが、学校のプールに塩３粒程度の量。国が定めている基準なので朝来市としてもその基準を守っていきたいというところで記載している。

松原委員：欧州では１桁代の基準値である。せめて 10 以下にしてもらえないかと県水道課に行ったこともある。吉備中央町では流産とかそういった被害がでている。そうならないと規制しないのかと言われると不安である。

木村会長：厳しい数字が入ると誤解を招く可能性もある。

島 委 員：朝来市は PFAS を検査したことがあるのか。

事 務 局：法定検査になったのはこの４月からであるが、昨年も一昨年も検査しており、いずれも定量下限値以下、要するに不検出といった結果が出ている。

島 委 員：国の基準が 50 で朝来市が 20 や 30 で検出されているのであれば、もっと下げないといけないという基準を持ってくるのは分かるが、不検出の状況であるなら国の基準で問題ないのでは。

木村会長：今後ビジョンは見直ししていくことが示されているので、今の段階のビジョンでは、この形で良いと思う。

中西委員：経営比較分析について、非常に厳しい状況であるのは間違いないが、例えば経常収支比率 107%だが人口減少で収益は減っていき、借入金についてもこれからは金利ある世界に入っていき、その辺も含めて、心配な状況であるというのは、一目瞭然である。すべての経営資源が不足しているのが今回のビジョンの根底にある不安だと思うが、このあたりもうひと工夫あったほうが読み手としては安心だと思う。

木村会長：ダウンサイジングや経費削減のために外注していくという方針は記載があるが、収益の確保についての記載はない。料金改定の話になると思うが、まだ当面は検討を重ねなければならず、このビジョンに載せるのは早計であると理解しているが、事務局としてはいかがか。

事 務 局：今回のビジョンはあくまで大きな方向性を示すものという位置づけである。その中で経営戦略の見直しを記載しており、具体的な財源等は、その経営戦略の見直しの中で検討する。

中西委員：SWOT 分析の弱みのところに財政のことの記載がないので、弱みを強みで克服するというような記載があっても良いのでないかと個人的には思う。

島 委 員：水道施設の更新には市の予算では賄いきれないほどの金額ではないのか。

事 務 局：全ての資産を更新するとなると膨大な金額になる。

島 委 員：水道事業は儲からない事業なので民間に委託しても受けてくれるところは出てこない。なので、特別会計から企業会計にして儲けていくようなシステムにしなさいというのが国の方針だと思うがどうか。

事 務 局：水道事業は以前から企業会計である。下水道事業は特別会計であったが、企業会計へ移行した。経営状況の分析ができるように公営企業に移行するようにというのがあったかと思う。

島 委 員：現在の水道料金の中には、将来的な設備更新費用も加味されているのか。おそらくそういった料金体系になっていないと思う。そこを加味した上で、

料金体系についてをこのビジョンに入れていくなら、料金に更新費用をどこまで入れ込むのか、入れ込まないのか議論をしていくと中々前に進まないのでは。

事 務 局：料金改定のマニュアルにはそういった将来の更新費用も含めた料金体系にするようにとあるが、現状の料金体系には含まれていない。

木村会長：令和 10 年に経営戦略の見直しを行うとビジョンの中でも記載があり、今の時点でこのビジョンで具体的なことを先走って記載するのは危険ではないか。ここで記載することを決めるのは簡単であるが、実行に移すときに実現困難になる可能性もある。

中西委員：将来は過渡期なので具体的な記載は避けたほうが良いということで理解した。

島 委 員：前ビジョンで達成できていない目標は新ビジョンにどう反映させているのか。

事 務 局：前ビジョンで未実施であった緑ヶ丘上水道更新・耐震化については、52 ページの広域的な更新計画に、そのほか△が多かった耐震化等についても、同ページの基幹施設の耐震化、または劣化管路の計画的更新において取り組んでいく。また人材育成等については、48・49 ページに記載のとおり新技術の導入や包括体制、民間活用等をしながら技術の継承を図り持続可能な水道経営を目指していく。

島 委 員：技術職員の募集はあるのか。

事 務 局：市としては募集しており採用もあるが、公営企業独自では募集していない。技術職員の不足や技術継承は朝来市だけの問題ではなく、全国的な問題である。

奥村委員：県においても専門職の確保に苦慮している。今年から県主催でスキルアッププログラムという形で兵庫県まちづくりセンターの技術者の方を中心に研修会を開催しており、県下での技術職員の育成の新たな取り組みを始めたところである。

松原委員：民間委託を進めていくといった話があったが、一方で技術の継承もとあり、施設の維持管理等、全部委託して本当に良いものなのか疑問がある。

事 務 局：昔は市の職員が施設を巡回していたが、職員数も減少しており業務の中で事業者に委託する部分と市が管理していく部分とを分けている。今後も

そういった役割分担は特に必要になっていくと考えている。

木村会長：44 ページの前ビジョンとの対応関係について、図では前ビジョンの「安全」は新ビジョンの「A:Aqua」と対応しているとあるが、個別のページでは、「A:Aqua」は「強靱」「持続」とも対応しているとあり、44 ページの図は誤りではないか。

相互設計事務所：図の下に補足の説明を記載しており、各テーマの取組みには複数の観点に寄与するものもあると記載している。いただいた意見を反映して分かりやすいように修正する。

木村会長：今日の審議会で出た意見をビジョンに反映していくことになると思うが、大幅な修正がないことから、次回の審議会は不開催として修正した素案を委員の皆さんにお送りして意見があれば事務局まで連絡いただくという形はいかがでしょうか。

事 務 局：次回の審議会を開催しない場合の今後のスケジュールですが、素案の修正案と答申案を作成でき次第、委員の皆様にお送りしまして、その内容をもって、会長から市長に答申してもらい、その後、パブリックコメントを実施。パブリックコメントの内容次第では再度審議会を開催することもありますが、軽微な修正であれば最終案を委員の皆様にお送りしてご確認いただきたいと考えています。最終的には 3 月に市の議会へ報告して完成形を公表といった流れになります。

木村会長：今回の軽微な修正と第１回から第４回までの審議内容を反映させた答申案を作成します。それらについて会長に一任いただけたらと考えております。委員の皆様、いかがでしょうか。

木村会長：よろしいでしょうか。ありがとうございます。
それでは進行を事務局に返します。

事 務 局：ビジョンの完成までまだ時間があるので、お気づきの点があれば修正できますので、事務局まで連絡をお願いします。それでは閉会にあたって、副会長が欠席のため上下水道部長からご挨拶申し上げます。

４．閉会（上下水道部長）

委員の皆様におかれましては、慎重御審議いただきありがとうございました。来年度からはこの水道ビジョンをもとに、水道事業を進めていき引き続き安全で安心な水を市民にお届けしていきたいと考えおりますのでどうぞよろしくお願いいたします。先ほど会長からもお話がありましたが、令和 10 年度には財政や経営の計画である経営戦略の見直しを考えております。その際には審議会を開催することになりますので、その折にはまた皆様にお声掛けさせていただくこともあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、第４回の水道事業審議会を閉会といたします。皆さん大変お疲れ様でした。

以上